

# 第5回 宮崎県河川整備学識者懇談会

=指摘事項と対応について=

## 【宮崎県河川整備学識者懇談会】

	開催日時	開催場所	対象河川
第2回 宮崎県河川整備学識者懇談会	平成26年10月24日 13:30~16:00	串間市文化会館	伊比井川、宮浦川、風田川、 細田川、福島川
第3回 宮崎県河川整備学識者懇談会	平成26年10月28日 13:00~15:30	ニューウェルシティ宮崎	新別府川、清武川、加江田川
第4回 宮崎県河川整備学識者懇談会	平成26年11月11日 13:30~16:00	日向市大王谷コミュニティセンター	熊野江川、沖田川、鳴子川、 塩見川、赤岩川

## ■別紙資料-2 対象河川における流域の特徴

【第2～4回 宮崎県河川整備学識者懇談会】

懇談会における指摘事項と対応

No.	指摘事項	対応内容	備考
1	<p>【全河川共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国定公園の存在は流域の特徴の一つ。確認のうえ記載すること。（第2回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然環境の特徴として、国定公園エリアを確認し記載した。 別紙資料-2：P3</li> </ul>	第3回で 了承
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生態環境を物理環境で確認するにあたり、河口部の河床材料、水質、水深、流速といった指標で表現してほしい。（第2回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既往データで記載可能な項目について、表現した。 別紙資料-2：P4</li> </ul>	第3回で 了承
3	<p>【沖田川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖田川はハマボウが特徴的。河川の特徴として記載すること。（第4回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指摘を踏まえ、表現を修正した。 別紙資料-2：P3</li> </ul>	—
4	<p>【塩見川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塩見川の魚類の確認種数が少なすぎないか。（第4回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再確認するとともに、秋期、冬期調査の結果を踏まえて、修正した。 別紙資料-2：P4</li> </ul>	—
5	<p>【新別府川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新別府川に水源涵養林が少ないことも河川の特徴の一つ。（第3回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流域の特徴として、水源涵養林について記載した。 別紙資料-2：P10</li> </ul>	—
6	<p>【福島川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島川水系は出現種数を河川別（3河川別）に分けて記載できないか。（第2回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島川、天神川、善田川に分けて、出現種数を記載した。 資料-1：P5</li> </ul>	第4回で 了承

## ■別紙資料-3 環境調査について

【第2～4回 宮崎県河川整備学識者懇談会】

懇談会における指摘事項と対応

No.	指摘事項	対応内容	備考
1	<p>【全河川共通】</p> <p>・出現種数の多い少ないなどの表現については、環境調査の目的を踏まえ、適切な表現に改めること。 (第2回)</p>	<p>・適切な表現となるよう調査目的を留意して記載した。 資料-1 : P2</p>	第3回で 了承
2	<p>・カワネズミの調査は溪流で実施する必要がある。上流のヤマメ等が生息する場所にすべきではないか。 (第3回)</p>	<p>・カワネズミの調査位置について再検討する。 別紙資料-3 : P2</p>	第4回で 了承
3	<p>・文献による生物種等の抽出範囲及び抽出方法について整理すること。また、場所が特定できない生物種の記載方法についても明確にすること。 (第3回)</p>	<p>・文献資料の取り扱いについて、第4回懇談会にて報告済み。 別紙資料-3 : P3～P7</p>	第4回で 了承

## ■別紙資料-4 整備区間・対策の検討結果

【第2～4回 宮崎県河川整備学識者懇談会】

懇談会における指摘事項と対応

No.	指摘事項	対応内容	備考
1	<p>【全河川共通】</p> <p>・樋門の津波対策として、安直にフラップゲートとしないほしい。 (第3回)</p>	<p>・津波の遡上により浸水の恐れがある水路流入箇所については、カウンタウェイ式のフラップゲートを基本とするが、詳細検討時に環境特性を踏まえて工法を選択することとする。 別紙資料-4：P2</p>	第4回で 了承
2	<p>・過去の護岸工事でハマボウとハマナツメが消失していることから、護岸構造については、ハマボウに配慮し、工夫すること。 (第4回)</p>	<p>・現段階では、防護主体となるため基本構造について表現している。詳細検討時に工夫を行うこととする。 別紙資料-4：P2</p>	—
3	<p>・水門・樋門等、図に無いものがあったと思うが、再度チェックするか。(第2回)</p>	<p>・河川台帳を用いて、樋門の位置を再度チェックした。津波が遡上して地盤高より低い樋門については全て自動閉鎖化の対象とした。 別紙資料-4：P5～P33</p>	—
4	<p>【沖田川】</p> <p>・沖田川の河口右岸の嵩上げは必要か。(第4回)</p>	<p>・防護すべき家屋資産が存在するため要対策とした。 別紙資料-4：P7</p>	—

## ■別紙資料-5 整備における環境への配慮事項

【第2～4回 宮崎県河川整備学識者懇談会】

懇談会における指摘事項と対応

No.	指摘事項	対応内容	備考
1	<p>【全河川共通】</p> <p>・コアマモの移植は困難である。誤解されないような表現とすること。 (第2回)</p>	<p>・移植は困難なため、最終的な手段となる。</p>	第4回で 了承
2	<p>・文章の修正</p> <p>“地盤改良により直接的影響を受けるため、移植等の保全措置を…” ⇒ “工事の影響が及ばないよう施工方法等を配慮するが、影響を回避できない場合には移植等の保全措置を検討する” (第2回)</p>	<p>・左記の主旨を踏まえ、“回避できない場合には移植等の保全措置を…”として修正した。 別紙資料-5：P11</p>	
3	<p>・ハマボウをはじめ、移植についてはいろいろ検討して最終的な手法となることわかるように記載すること。 (第3回)</p>		
4	<p>・横断方向のエコトーンも大事であるが、縦断方向についても留意すること。 (第2回)</p>	<p>・主旨を理解し、縦断方向の河川環境にも留意した。 資料-1：P8～P11（沖田川・加江田川）</p>	—
5	<p>・河畔林について学術分野により定義が異なることに留意して記載すること。 (第2回)</p>	<p>・河道内の攪乱域を河畔林、それ以上を河岸林と定義するが、不明瞭な場合は河畔林(河岸林)と表記した。 別紙資料-5：P12</p>	第3回で 了承

【第2～4回 宮崎県河川整備学識者懇談会】

懇談会における指摘事項と対応

No.	指摘事項	対応内容	備考
6	<p>【熊野江川】</p> <p>・クマノエミオスジガニの生態を考慮すると、秋～春の時期が重要である。工事時期や工法について留意して記載すること。</p> <p style="text-align: right;">(第4回)</p>	<p>・時期を限定せず、対象種によって工事時期や工法について留意するよう修正した。</p> <p>別紙資料-5：P2</p>	—
7	<p>・施工中のモニタリングは、赤岩川だけでなく、熊野江川のクマノエミオスジガニにも行うこと。</p> <p style="text-align: right;">(第4回)</p>	<p>・熊野江川のクマノエミオスジガニについても施工中のモニタリングを行うこととする。</p> <p>別紙資料-5：P2</p>	—
8	<p>【塩見川】</p> <p>・コアマモは通常地下茎で殖える。種子で殖えることはむしろ少ない。種子の分散といった特定の記述はやめること。(第4回)</p>	<p>・左記の指摘を踏まえ、種子の分散といった特定の記述を改め修正した。</p> <p>別紙資料-5：P6</p>	—

## ■参考資料

### 【第2～4回 宮崎県河川整備学識者懇談会】

#### 懇談会における指摘事項と対応

No.	指摘事項	対応内容	備考
1	<b>【塩見川】</b> ・塩見川の魚類の調査範囲がおかしいのではないか。(第4回)	・調査範囲については誤りがないことを再確認した。 参考資料：環境情報図 P25～32	—
2	<b>【赤岩川】</b> ・赤岩川のカワヂシャの分布位置は誤りでないか。(第4回)	・再確認し、修正した。 参考資料：環境情報図 P33～36	—
3	<b>【加江田川】</b> ・コアマモ群落が存在するので確認し、記載を行うこと。(第3回)	・文献調査結果も含めて再確認の上、修正し、記載した。 参考資料：環境情報図 P50～56	—
4	・シオマネキが高密度に生息している場所に記載がない。(第3回)	・現地調査範囲外の場所であり、現地確認ができていないため記載しない。 参考資料：環境情報図 P50～56	—